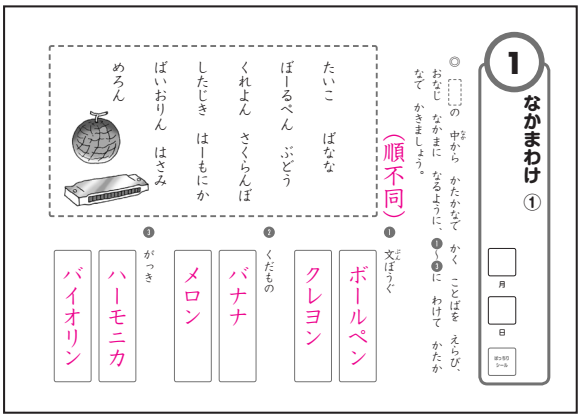
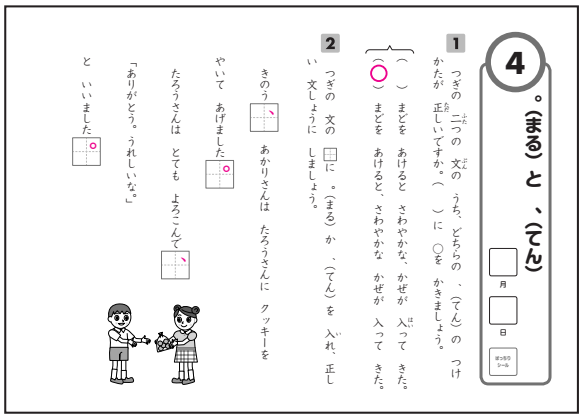
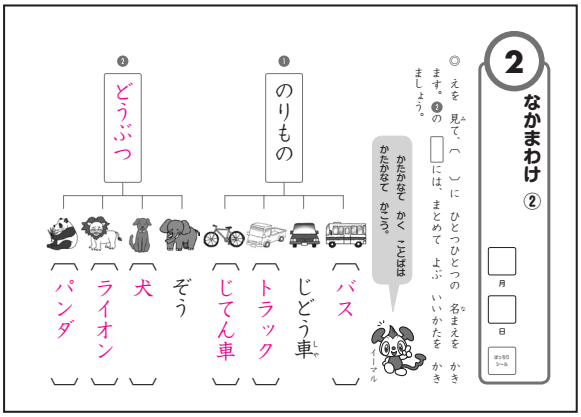
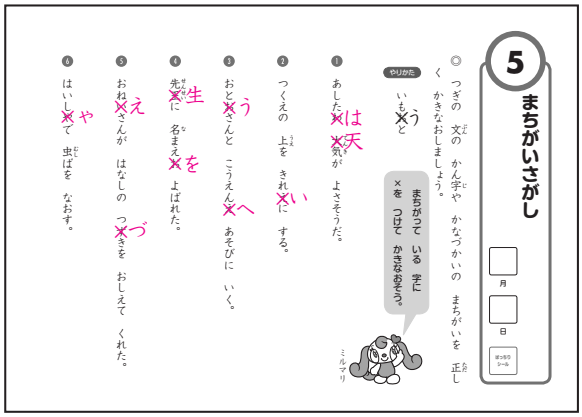
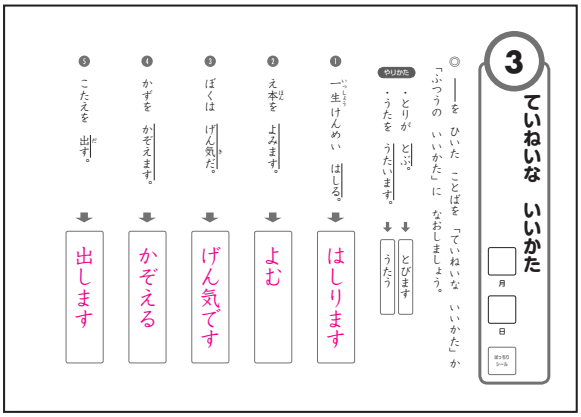
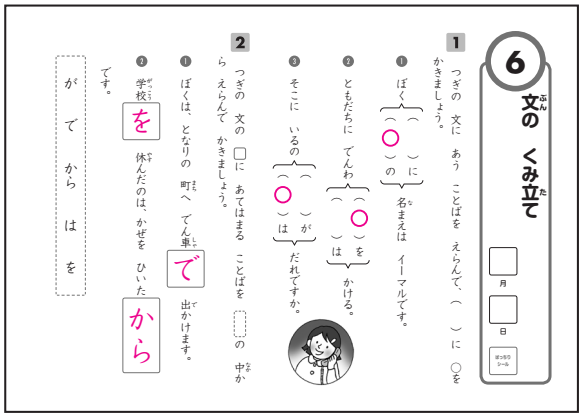










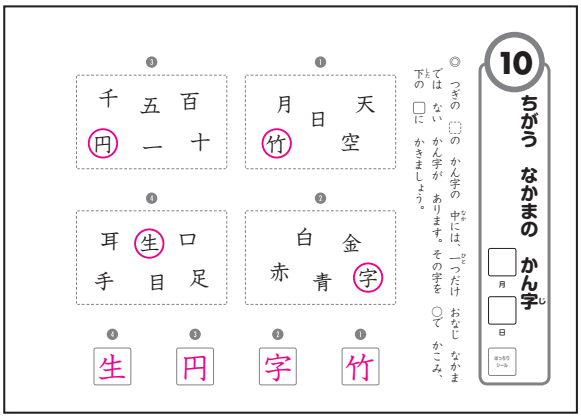


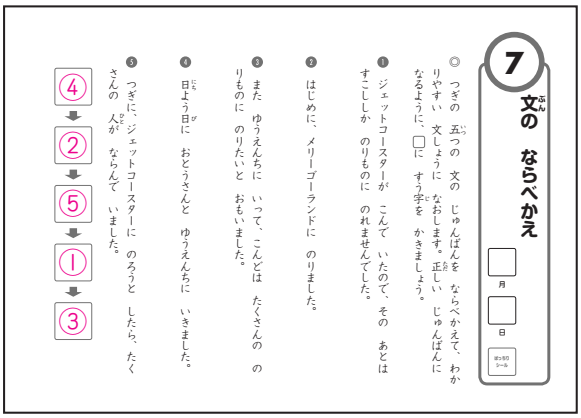
1 **2** 一年生では、「仲間分け」という活動を通じて、上位概念語・下位概念語の学習に取り組みます。今回は、それにかたかなで書く言葉の要素が加わっています。かたかなについては二年生でも学習しますが、外来語はかたかなで書くという原則は知っておくとよいでしょう。なお、さくらんぼやぶどうをかたかなで書く表記も一般には見られますが、**1**では原則どおり外来語のバナナ・メロンを正解としています。

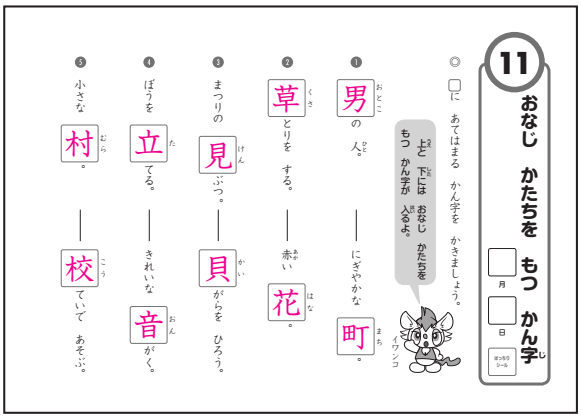
3 学習指導要領には、「敬体で書かれた文章に慣れること。」という学習目標が掲げられています。現時点では、「敬体」「常体」という言葉を覚える必要はありませんが、ふだんから丁寧な言い方・普通の言い方の違いを意識して話したり書いたりするようにしましょう。

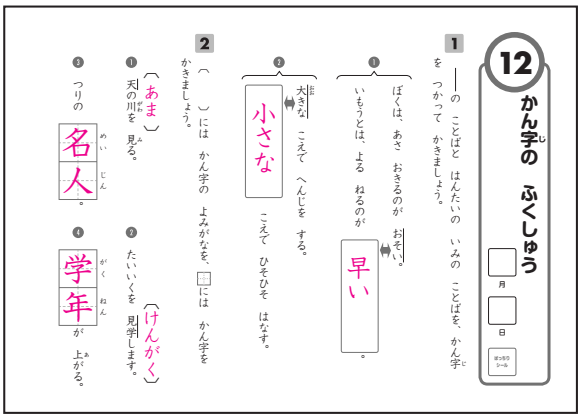
4 句読点も、二年生で改めて学習する内容です。とはいえ、一年生の時点でも、句点（。）と読点（、）の違いを認識し、文の終わりには句点をつけることを習慣づけておきたいものです。

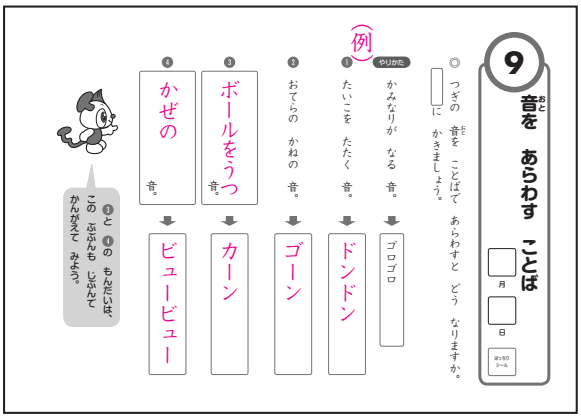
5 長音・拗音・促音、助詞「は」「を」「へ」については、一年生における言語事項の重要課題と言えます。この問題のようなまちがい探しは、作文における推敲の作業にも通じるので、ドリルなどを使って繰り返し取り組むとよいでしょう。











6
7
8

一年生の後半から二年生にかけての国語における重要課題の一つに、「順序」の学習があります。順序の学習を構成するものとして、語と語のつながり・文と文のつながりを意識して読み書きすることや、助詞や接続語の学習があります。本を読んだり、作文を書いたりすることももちろん大切ですが、こうしたドリル形式の問題に取り組んでおくことも、順序の学習の基礎固めとして効果的です。

9

音を言葉で表現する問題です。擬声語、あるいは擬音語と呼ばれるものは、原則として、かたかなで書きます。

□の中には、上記の解答例以外の言葉を入れてもかまいません。いろいろな言葉を考えてみましょう。お子さまなりの表現が出てくると思いますが、よほど的外れな表現でない限り、お子さまの答えを尊重してあげてください。

10
11
12

漢字の学習には、「書き取り」「読み」「意味」の三つの要素があります。そのいずれにおいても、一つ一つ覚えていくのではなく、グループ分けしたり、相互に関連させたりしながら覚えていくと、効率よく学習できます。文章の中で漢字の読み書きを学習することも重要ですが、ドリル演習を通じて漢字をグループでとらえられるようにしていきましょう。